

2021年ラウンド3レース9 前日の悔しさを糧に、77号車の澤龍之介選手がFRJ初参戦にして初優勝を果たす！

Formula Regional Japanese Championship (フォーミュラ・リージョナル・ジャパニーズ・チャンピオンシップ) 2021のラウンド3 レース9決勝が9月26日(日)に富士スピードウェイで行われ、77号車の澤龍之介選手 (D'station Racing F111/3) が初優勝を飾りました。



今週末の3レース目は、25日に行われた公式予選1におけるセカンドベストタイム順でグリッドが決められ、8号車の三浦愛選手 (ARTA F111/3) がポールポジション、2番グリッドに28号車の古谷悠河選手 (TOM'S YOUTH) がつけました。

スタートでは8号車の三浦選手が抜群のダッシュを決めてトップでTGRコーナーを通過。一方、28号車の古谷選手は出遅れてしまい5番手まで後退。後方では3台が接触するアクシデントが発生し、2台のマシンがリタイア。車両回収のためにセーフティカーが導入されました。

5周回目に入るところでレースが再開されると、スタートで好ダッシュを決めて3番手につけていた澤選手が積極的に前のマシンに仕掛けていき、3号車の小川颯太選手 (Sutekina Racing) をオーバーテイク。澤選手は2番手に上がると、6周回目のトヨペット100Rコーナーで三浦選手も攻略し、トップに浮上しました。

さらに古谷選手も遅れをとりもどすべくペースをあげて仕掛けていき、6周回目の13コーナーで2番手に浮上。トップの77号車、澤選手を追いかけて始めましたが、その差はなかなか縮まりませんでした。

残り5周回をきったところで雨が降り始め、コース後半のセクター3を中心に滑りやすいコンディションとなりましたが、トップの澤選手は最後まで安定したドライビングを披露し、そのポジションを守ってフィニッシュ。初参戦の今大会3レース目にして初優勝を飾りました。2位には古谷選手、3位には三浦選手が続きました。

マスタークラスでは、総合6番手からスタートした39号車の田中優暉選手（ASCLAYIndサクセスES）が終始オーバーオールトップ集団に食らいつく走りを披露し、今シーズン3勝目を記録しました。2位には96号車のTAKUMI選手（B-MAX ENGINEERING FRJ）、3位には34号車の三浦勝選手（CMS F111）が入りました。

◆レース9 優勝 澤龍之介選手コメント

「めちゃめちゃ最高の気分です！昨日の2レース目が後味の悪い結果になってしまった分、3レース目で優勝できてスッキリできましたし、昨日の接触に対する気持ちを乗り越え、僕は勝てるんだぞ、というのを証明できたので嬉しいです」

「古谷選手が2番手に上がってからは背後に着かれると思い構えていましたが、彼と変わらないペースで走っていたので、それが良かったです。1レース目の時からクルマのセッティングも大きく変えて、平野エンジニアとことごと話し合いをしました。メカニックさんを含め、D'station Racingさんにすごく感謝しています。次戦以降の参戦については、まだ分かりませんが、自分自身の速さを今大会で出すことができたと思います」

◆レース9マスタークラス優勝 田中優暉選手コメント

「昨日までの2レースで悪かったところを見直して、とにかく慌てずに走ることができました。ただ、あまり前のマシンに近づきすぎると気流が乱れて、コントロールを失ってクラッシュにもつながりかねないので、チームからも少し安全な間隔をとりましょうと無線で指示がありました。平峰一貴選手がコーチとしてついてくれていたので、色々教えてもらいながら、今回は走ることができました」

以上

